

ひとりで悩まないで
～私たちに聴かせてください～

カトリック大阪大司教区
セクシュアル・ハラスメント
相談窓口

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間

月・火・金曜日(祝日を除く)

午前10時～午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は守られます。

第二金曜日
に「性虐待
被害者の為
の祈りと償
いの日」の
ミサの実施
を決定しま
した。

残念なことに、世界のカトリック教会において、聖職者によるセクシュアル・ハラスメント——特に、未成年者への性虐待の問題が浮き彫りになっています。この問題が、教会に対しての信用を著しく失わせている状況があります。また、教会の被害者に対しての対

応についても、社会から隠
ぺい体質が問われていま
す。

2016年、教皇フランシスコは、キリストの教会として本来の姿を取り戻すためにも、被害者への真摯な対応をしてほしいと、全世界の教会に呼びかけました。その現れとして、毎

前田万葉大司教は、その前後のいずれかの主日ミサで、この意向を兼ねたミサを大阪教区の各小教区で行うことを促しています。

去年、今年と新型コロナウイルスの影響で、予定されていた日の公開ミサが中止になり、償いの祈りについて十分なことが出来ませんでした。このことに鑑み、前田大司教は、この問題について最も意識しなければならぬのは聖職者であるという考えから、司祭を中心にミサを行うことを決めました。当初、司祭の修養会の場で、この意向を持つてミサを行うことになっていました。緊急事態宣言の影響で修養会が中止

になりました。そこで、9月の司祭評議会の後、評議員を集め、大阪カテドラルの小聖堂で、大司教による司式でミサが執り行われました。

ミサの中で大司教は、司祭団として、兄弟の過ちを自分の問題として受けとめ、司祭団として意識していくことを強調されました。

ミサの中で大司教は、
司祭団として、兄弟の過ち
を自分の問題として受けと
り、司祭団として意識して
いくことを強調されまし
た。

共同祈願の中では、性虐待、セクシユアル・ハラスメントの被害者の痛みや苦しみの癒しを神に願い、痛みを抱えていた方々の存在を知らずにいたことを神にゆるしを求めました。また、被害者に寄り添う力をいただくこと、性虐待の加害者となった者が、謙虚に過ちを認め、被害者に誠実に謝罪する事への導きを神に祈りました。そして、本来の司祭の在り方として、仕えられるためではなく、仕える者として世に來られたキリストに倣い、すべての司祭が、福音を告げる使命を全うすることが出来るように祈りをささげました。

大阪教区では、未成年者への性的虐待、セクシュアル・ハラスメントについての相談窓口および対応委員会を設けています。被害を受けた方は、どうぞ安心して、左上の相談窓口までお電話ください。



委員長 清川泰司



和田神父「聖書事業功労者受賞の感想」の動画▲

2年のときのことだった。当時、私は英語、仏語は読めても、ドイツ語とは縁がなかった。この言語習得に努力した。聖書学において、ドイツ語は不可欠と聞いていたからだ。

三好迪師、太田道子さんがいた。1970年前後に、日本でもカトリックとプロテスタントが協力して聖書を翻訳しようとの機運が盛り上がった。それが87年に初版発行の『聖書』、新共同訳（日本聖書協会）だ。

これにはカトリック側から司教団を代表して、平田三郎司教（福岡教区）、馬信夫司教（名古屋教区）、それに協力してスルピス会のZ・イエール師、フランシスコ会のB・シュナイダー師、イエズス会のP・ネメシエギ師がいた

(文) ドムスガラシア
チャプレン (和) 田幹男

11/21 ▶ 28 「聖書週間」と「新共同訳聖書」

毎年11月末の週は「聖書週間」。『新共同訳聖書』の翻訳者として活躍された大阪教区の和田幹男神父は、昨年11月、日本聖書協会から「聖書事業功労者章」を授与された。今回、この聖書翻訳プロジェクトに関わった経緯をうかがった。いつもより『聖書』を身近に感じながら、じっくり味わう機会をもちたい。和田神父様、改めておめでとうございます！

カトリックとプロテスタントが協力して聖書を世に送るという企画は、20世紀の教会の出来事として画期的なことだった。「聖書週間」はそのサポーターとして大きな役割を果たしてきたように思う。それを感じながら、聖書翻訳という作業をさせていただいた。

私が聖書学を専攻するようになったのは、すでに聖書学を専攻するよう命じられていた大阪教区の先輩の一神父が病いに倒れたので、そのお鉢が私に回ってきたからである。それはローマのウルバノ大学神学部

私が聖書を専攻するようになったのは、すでに聖書を専攻するようになった大阪教区先輩

で書かれた教科書で、ラテン語の授業で学んだ。そのとき、聖書地理学や考古学、歴史学も学んだ。翌年には、いっそうレベルの高い聖書言語を学びながら旧約学を専攻し、聖書釈義のゼミに参加したり、特に M・ダフッド教授のもとで、北西セム語学から難解な聖書ヘブライ語本文を読み解く作業を習得した。これは後に、ヨブ記の難解な箇所を読み解くのに役に立った。

その頃、この聖書研究
所にはフランス公会の故
堀田雄^{ほったゆう}康^{こう}師^し、サレジオ会^{さるじおかい}の
故石川^{いしかわ}康^{こう}輔^{すけ}師^し、神言会^{しんごんかい}の故